

※実務経験のある教員による授業科目

## 授業概要

子どもの教育や保育において、子どもの発達を支援するためには子どもの発達過程や、そこで生じる課題を理解することが必要である。公立学校での指導助言の実務経験を活かし、子どもの発達や学び及びその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理や対応の方法を子どもの生活や遊びの実態に即して学ぶ。そして他者を理解する自己を確立し、自ら理解に基づく援助の方針を立てられるようにする。

## 授業計画

第 1 回	ガイダンス（授業の進め方、評価方法などについて）、子どもの発達や学習を理解することの意義
第 2 回	子どもの発達や学習と環境
第 3 回	発達や学習の理論と子ども観・発達観
第 4 回	子どもに対する共感的理解と関わり
第 5 回	子どもの発達過程
第 6 回	子どもの学びと保育
第 7 回	子どもを理解する視点
第 8 回	子どもを理解する方法：観察、記録、省察・評価
第 9 回	子どもの生活・生育環境とその影響
第 10 回	発達の課題に応じた援助と関わり
第 11 回	特別な配慮を要する子どもの理解と援助
第 12 回	発達の連続性と就学への支援
第 13 回	家族・家庭の理解
第 14 回	子育て家庭に関する現状と課題
第 15 回	生涯発達への理解
第 16 回	定期試験

## 到達目標

- ・子ども一人一人の心身の発達や学びを捉えることの意義について説明することができる。
- ・子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。
- ・子どもを理解するための具体的な方法を子どもの発達の特性や課題を踏まえ考えることができる。

## 履修上の注意

授業は講義形式で行うが、コメントを書くなどのワークを毎回課すので、積極的に授業に参加すること。出欠は厳密に記録にとるので、そのつもりで受講すること。

## 予習・復習

予習として、予め配付する資料に目を通しておくこと。  
また、資料と授業の内容を併せて復習し、参考文献なども用いて理解を深めること。

## 評価方法

授業での取り組み（40%）と期末試験（60%）によって行う。  
授業での取り組みについては、授業で課すレポート等の評価および提出状況と、授業態度なども考慮する。

## テキスト

テキストは指定しない。毎回の授業で資料を配布する。  
授業内で適宜、参考文献を紹介する。